

【2018年度 シラバス】

時間割コード		開講区分	春・夏学期 (集中)
ナンバリングコード※	3B1504	開講日	4月夕＋ 8/18,9/1,9/15,9/29
開講科目名	協働術 D (まちづくりのマネジメント)	単位数	2
担当教員	土井勉＋安東直紀・小林郁雄・辻信一	年次	全研究科、学部3年 以上の全学生、社会 人
講義題目	協働術 D (まちづくりのマネジメント)		
開講言語	日本語		
授業の目的	<p>本講義はCOデザインセンターの教育理念である〈つながり〉を生み出す術(アート)の一つである協働術について「まちづくり」をテーマとして身につけることを目的とします。</p> <p>まちづくりは極めてストライクゾーンの広い用語です。まちづくりが多用されるようになって来た背景には、魅力的な地域の創造を実現するためには行政だけでなく、企業や地域の人々など多様な当事者が主体的に政策形成に参加することが重要だとの認識が広がっているからです。</p> <p>本講義では、主に日常生活を支える活動である交通を切り口として人口減少社会において魅力あるまちのづくりを進めるための問題を提示し、これの解決に向けて必要となる考え方と方法、多様な主体との連携の方策や協働に関する分析力、コミュニケーション力、グループワークの方法、チームビルディングの方法などへの理解を深め、まちづくりを担う人材の育成を行うものです。なお、ここで提示する問題などは科目担当者が担っている多くの行政等の委員会・審議会などでも取り上げられている最新のものを扱うことを考えています。</p>		
学習目標	<p>本講義を履修する学生(院生・社会人)の皆さんが地域のあり方とまちづくりの関係について理解し、問題解決を進めるために必要となる行政・住民・企業などの協働による政策の策定、実行、評価の仕組みを理解し、協働に不可欠なコミュニケーション能力とプロジェクトマネジメント能力を身につけることを目標としています。</p>		
履修条件・受講条件 ※	<p>毎回の講義ではテーマを決めて履修生間の対話による相互理解・互学互習を行うため、積極的に議論に参加することを期待する。また講義情報などはfacebookを通じて共有するため、ここへの登録を推奨する。</p>		
授業計画	4/13(金)6限 (豊中学生会館101号・セミナー室A)	オリエンテーション	
	4/20(金)6限 (吹田工学 P1-211)	オリエンテーション	

	第1回：8/18（土）1限「まち」について考えるということ
	第2回：2限 現場からみた地方創生（安東）
	第3回：3限 まちづくりと都市計画
	第4回：4限 公共性とは何か
	第5回：9/1（土）1限 生活とまちと総合交通政策
	第6回：2限 地域公共交通が果たす役割とクロスセクター効果
	第7回：3限 社会的ジレンマとその対応；政策はなぜ実現しないのか
	第8回：4限 モビリティ・マネジメント
	第9回：9/15（土）1限 まちの見方とまちの構造
	第10回：2限 これからのまちづくりに期待されるもの（小林）
	第11回：3限 災害とまちづくり
	第12回：4限 まちにある不都合な真実
	第13回：9/29（土）1限 まちづくりと協働
	第14回：2限 ワークショップや地域との対話の重要性，現場での取組（辻）
	第15回：3限 これからのまちづくりとマネジメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からまちに関心を持ち，まちを歩き，なぜ現在の状況となっているのかについて考え，調べることを期待します。 ・毎回の講義においてテーマを提示するので，そのテーマに対応したまちの風景を写真撮影し意見を述べることで講義を進める予定です。 ・まちづくりの現場に行き，グループワークなどに積極的に参加することと期待します（その機会については 授業でアナウンスを行います）
	<p>ジェイン・ジェイコブズ：「発展する地域 衰退する地域」、ちくま学芸文庫</p> <p>小林郁雄他編：「都市計画とまちづくりがわかる本」、彰国社</p> <p>土井勉他：「まちづくりDIY」、学芸出版社</p> <p>宮本常一：「民俗学の旅」、講談社学術文庫</p> <p>戸部良一他6名：「失敗の本質 日本軍の組織論的研究」、中公文庫</p> <p>桂木隆夫：「公共哲学とはなんだろう」増補版，勁草書房</p> <p>ユヴァル・ノア・ハラリ：「サピエンス全史」，河出書房新社</p> <p>ダニエル・カーネマン：「ファスト&スロー」，ハヤカワ文庫</p> <p>その他、適時紹介する。</p>
授業外における学習	適時紹介する。
教科書・参考資料 ※	授業における積極的参加（60%）、レポート（40%）
参考文献 ※	地域創生、交通、まちづくり、コミュニケーション、住民協働、持続可能性、問題発見，課題解決
成績評価	・空腹の人たちにサカナをプレゼントするのではなく，サカナを獲る方法を教

	<p>えること,さらにはサカナを養殖する方法を教える人たちを育てたいと考えています (PBL についての私の考え方です).</p> <p>こうしたことに興味を持つ皆さんの参加を期待しています.</p>
キーワード ※	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を受講するにあたり,個人情報も含め特別な配慮を必要とする学生は初回授業のガイダンス後に申し出ること. ・ディスカッションを中心に授業を進めるので,受講者の積極的な参加と発言を期待する.